エリアの歴史

この資料は、「つなぐ町 流作場あるき ＜古信濃川跡めぐり＞」に記載されている出来事に近年の出来事を加え、時系列で整理した補足資料です。「つなぐ町 流作場あるき ＜古信濃川跡めぐり＞」と合わせてご覧ください。

資料4

寛延3年(1750)
新田村**「流作場新田」の誕生**

弘化3年(1844)
「流作場新田」が幕府領になる

明治元年(1868)
新政府が新潟を開港する

明治19年(1886)
初代「萬代橋」の開通

明治22年(1889)
流作場新田（中蒲原郡）が沼垂町と合併

明治37年（1904)
新潟駅の開業

明治42年（1909)
二代目「萬代橋」の完成

大正３年（1914)
新潟町と沼垂町の合併

大正11年（1922)
大河津分水路通水

昭和４年（1929)
三代目「萬代橋」の完成
信濃川両岸の埋め立て工事着工

昭和29年(1954)
新潟駅前土地区画整理事業着工

昭和33年（1958)
新潟駅　現在の場所へ移転

昭和47年（1972)
関屋分水路通水

昭和48年（1973)
万代シテイ オープン

昭和57年（1973)
上越新幹線・新潟ー大宮間が開通

昭和62年（1987)～
信濃川やすらぎ堤が順次完成

平成11年（1999)
新潟駅 南口広場供用

平成14年（2002)
柳都大橋・新潟みなとトンネル開通

平成19年（2007)
政令指定都市に移行

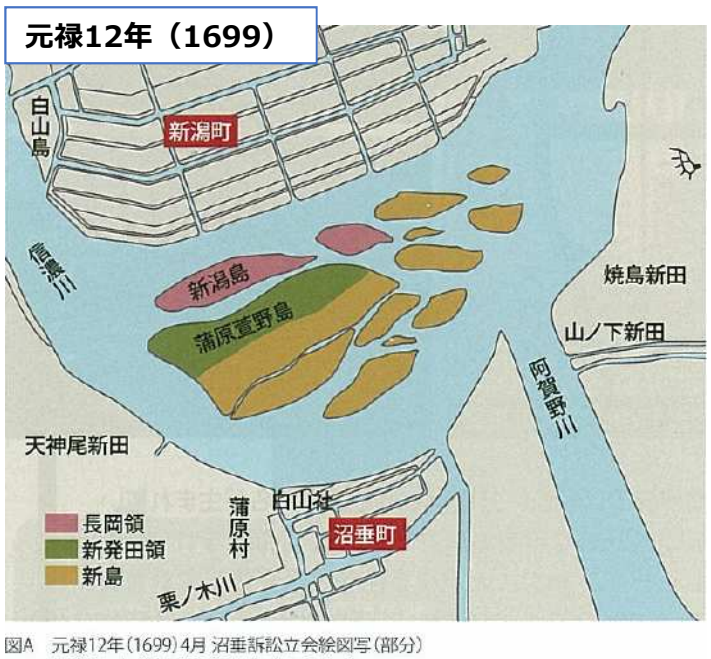
令和5年（2023)春頃
駅直下バスターミナル供用

令和5年度（2023)春頃から
万代広場段階的共用

流作場の始まり

・**流作場**の始まりは、信濃川の中州が寄り付いて成長し島となった土地だった。
・**「付寄島」**と呼ばれたその島と沼垂町の間は浅瀬となり、**「古信濃川」**と呼ばれるようになった。

元禄12年（1699）



図A　元禄12年(1699)4月 沼垂訴訟立会絵図写(部分)
『新潟市史』通史編2 近世(下)から作成

延享4年（1747）

図B　延享4年(1747) 沼垂新潟堺滅立会絵図写(部分)
『新潟市史』通史編2 近世(下)から作成、一部改変

明治の主な出来事

・明治以降、流作場新田は中蒲原郡の１村となる。
・初代萬代橋の開通と同時に、萬代橋から沼垂町をつなぐ県道（**新道**）が造成される。
・沼垂駅から鉄道が延びて流作場（現在の弁天公園付近）に**新潟駅が開業**した。(1904)
・**新道**には多くの商店が建て並ぶようになり、「**万代町通**」と呼ばれるようになった。
・新潟市から萬代橋を渡った先の、東に万代町通、西に新潟駅通となる交差点は**流作場三差路(現在の流作場五差路)**と呼ばれるようになった。
・流作場新田は**新潟町と沼垂町をつなぐ町**としての機能を大きくしていく

大正15年(1926)

大正の主な出来事

・新潟町と沼垂町が合併し、
流作場新田は**流作場**に改称。

二代目萬代橋の隣に新しく架けられた
三代目萬代橋

昭和33年(1958)以前
新潟駅前土地区画整理工事の状況

新潟駅万代広場完成イメージ

昭和の主な出来事

・**新潟駅の移転のため**に現在新潟駅がある場所の土地区画整理事業が着工され、42.4haの田を埋め立て、新駅から流作場までの幅50mの道路（**東大通**）とこれに直交する道路（**明石通**）が整備された。
・流作場は**バスや鉄道といった交通の拠点**となる。
・昭和50年代に**流作場**という住所が姿を消す

平成26年(2018)
つなぐ町流作場あるき 第4版

出典：つなぐ町流作場あるき＜古信濃川跡めぐり＞